

都市再生と住民参加 一 要 旨 一

(昭和36年11月25日, 12月2日・学部開設一周年記念講演会講演)

竹 内 愛 二

ルイス・マンフオードは、その著「都市と文明」の中で、都市は原都市、都市、大都市、巨大都市、専制都市、および墓場都市の六段階を経て発達し、遂に滅亡に至る運命をもっているが、わずかに「社会的突然変異」ともいふべき、超人的奇蹟がおこって、起死回生する場合があるのみであるといっている。しかしこの書は1939年に著されたもので、今日は人為的・計画的に都市の再生更新が企てられておるが、かかる「都市の腐朽荒廃に対する系統立った、計画に基づいた努力」をわれわれは「都市再生 urban renewal」とよぶのである。この都市再生ということは、都市再開発 urban redevelopment とか、ただ都市開発 urban development とはいわれ、地域社会開発 community development、或いは地域社会組織事業 community organization と称せられる専門社会事業の第三の分野のもの本質的性格をもつものである。即ち地域社会開発とは「全地域社会の経済的・社会的改善進歩のために考案された過程であって、この場合地域社会（の住民）の積極的参加と、創意とが最大限度に発揮されるものである」と国連によって定義づけられているごとく、ただ政府の行政的施策に終るものでなく、地域社会の住民たち自らの創意や参加が必ず動員されてなされるという処にその特質をもつものである。

都市再生のかかる特質をなす「住民参加 citizen participation」とは「自由ということが言葉以上の何ものかであるためには、地域社会の住民は彼らの共通の問題の処理に自ら参加せねばならない。住民が自らの地域社会の生活に対する責任を負い、かつその遂行のための活動に参加すべきだ」という不滅の原理は、人間はすべてその民主的権利を自ら行使し、また市民として最高度の成長を

とげたいという人間の基本的欲求に根ざしたものである。これに加えて地域社会はその有する民主主義の能力をますます発揮するように援助されねばならないという関心が存在するということを忘れてはならない」(Neighborhood Centers Today, 1960, P. 1) という性格規定をなされているものであるが、かかる意味の住民参加ということは、我国でも最近ようやく、社会福祉に関心を有する人々の間に着目されるようになったが、その理論的研究はまだ真に幼稚な発達段階にある。特に我国ではスラム等の住民はクズ、カス或はヨゴレなどという非人格的存在と考えられ、また遇せられている。そしてこれらの人々には強権をもって取締るか、或いは慈善的に福祉を考えてやればよい位の態度でぞまれている。スラムの問題を、その住民と協力して解決しようなどということは、夢のような空理想なるかの如き状態にある。筆者たちは最近西宮北口の団地の住民を対象として(430人)、「心の通路社会調査」というのを試みたが、その質問(Q11)で「あなたはよい指導者とはどんな人だと考えていられますか。適当とおもわれるものの番号二つを選んで○印で囲んで下さい」に対して、「みんなの意見を聞いて、それをよくまとめる人」と答えた人が313人もあった。また他の質問(Q13)「あなたはグループ活動の運営に下記のどれが適当だとお考えですか。適当とおもわれるものの番号を二つ選んで○印で囲んで下さい」に対して、「任期や役割をハッキリ決められた委員制度」がもっとも適当と答えた人が233人即ち約54%あったが、この団地内で実際になされている91種のグループ活動のうちかかる委員制度で現実的に運営されているものは、わずか4つに過ぎなかった。

筆者が昨年訪問した米国の各大都市では盛んにスラムを撤去して、公園住宅地のような美しい団地を建設していたが、かかる都市再生のかけには、もっとも活発な住民参加がなされていた。日

本の大都市が墓場都市として死滅の悲運に陥らないためには、かかる民主的住民参加による都市再生が企てられねばならないことを筆者は痛感するものである。